

令和6年度・第3回会報

第29回

令和7年3月27日 30年中間貯蔵施設地権者会 会長 門馬 好春

本年11月からの主な活動内容を第29回会報としてお届けさせて頂きました。

今年の寒暖差に会員の皆さまにも健康維持管理が大変なことだったと思います。

1.【第12回 環境省説明会開催】

昨年12月3日(火)13時からリンクル大熊でマスコミ公開の中で開催されました。

浅尾環境大臣宛て要望書提出に続き、環境省の説明の後、会員の皆さまから多くの質問・意見等が環境省に出されました。環境省回答は納得できないもので、詳細は別添「質問・意見等及び環境省口頭回答と文書回答」をご覧くださいと思います。

今後も課題と問題点について皆さまと共に環境省を糺し改善・見直しを求めて参りたいと思います。

「要望書読み上げ後提出の様子」

「12月4日福島民友新聞記事」



2.【中間貯蔵施設10年とマスコミ報道】

2015年3月13日の搬入開始から10年が過ぎて、中間貯蔵施設の終了期限である2045年3月12日まで20年を切りました。

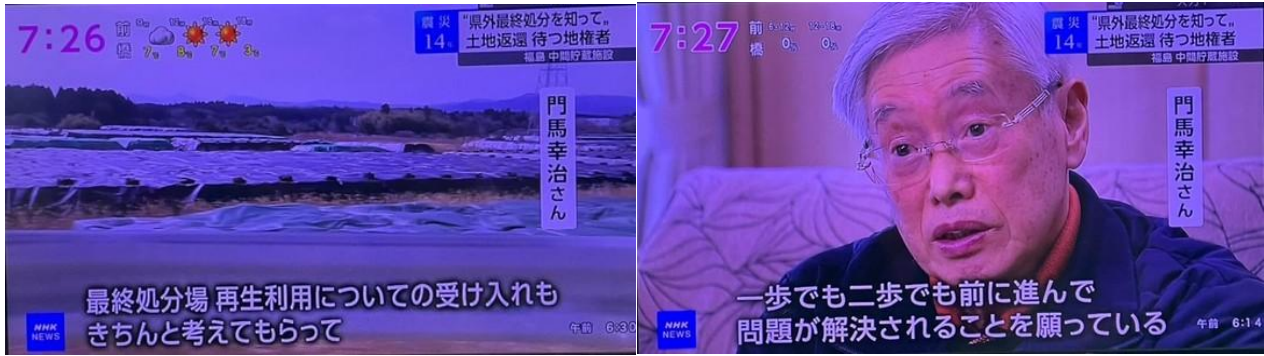
この10年間、会員の皆さまと共に福島県外最終処分場選定の具体的な取り組みを一日も早く行うことを、環境省に対し継続して強く要求してきました。

今年に入りマスコミの取材なども多く、3月7日門馬顧問がNHKの「おはよう日本」や「はまなかあいづ」に登場し地権者の苦悩と意思をお話いたしました。

また、門馬会長もマスコミの取材によるテレビや新聞などで報道されました。

「3月7日朝7時から NHK おはよう日本で放送された門馬顧問の映像の一部」





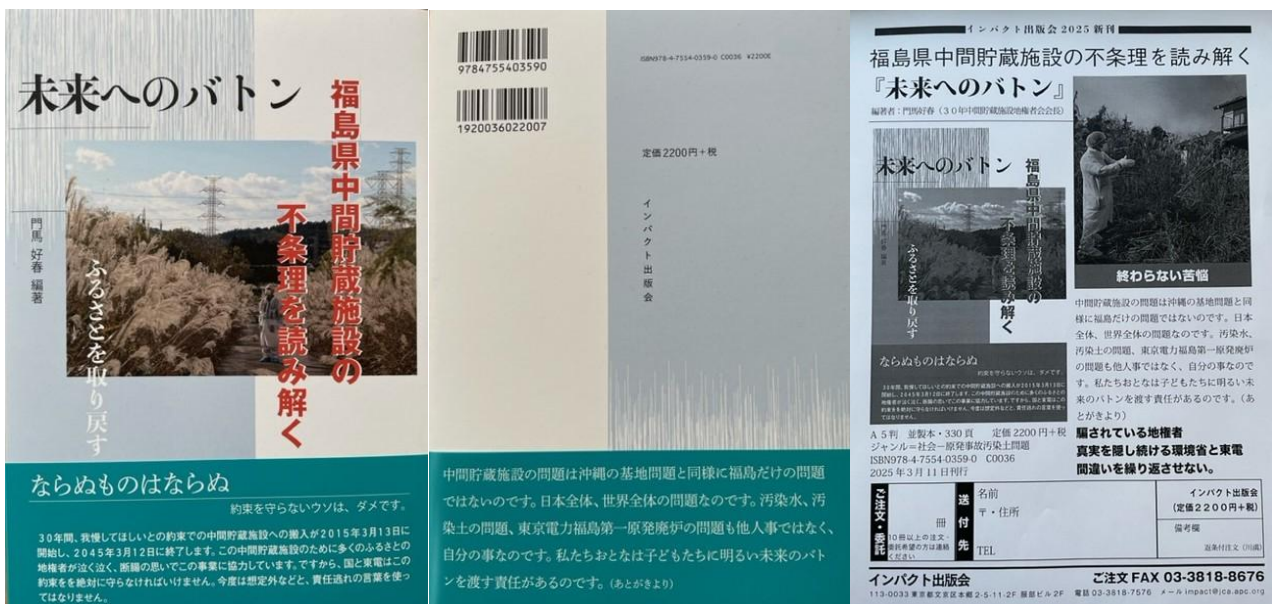
3.【門馬会長の編著・未来へのバトン】

3月11日の発行日で門馬会長が編著「未来へのバトン～福島県中間貯蔵施設の不条理を読み解く～」をインパクト出版会から多くの皆さまのご協力とご支援を得て出版することができました。環境省の用地補償の誤りや町民・地権者皆さまの苦しみや悩みも書かせて頂きました。対談部分には作本副会長が登場しております。会員の皆さま、よろしく願いいたします。

「未来へのバトンの表紙」

「裏面」

「チラシ」



4.【お知らせ】

- ①令和7年度当会の第11回定期総会は5月に書面議決でを予定しています
- ②12月9日「原子力災害考証館 furusato」のパネル・写真展示レイアウト変更
- ③財界ふくしま4月上旬発売の5月号に門馬会長の特別寄稿10頁が掲載

題名 国・環境省優先ではなく住民の安全安心を最優先に

副題 逆に地権者側から環境省に支払う貸地料算定式

全国に放射能汚染土の拡散計画を進める環境省

- ④3月25日第243回ふくしま復興支援フォーラムは汚染土の問題点について
講師山川剛史氏(東京新聞編集委員)テーマ「どうする膨大な汚染土の行方」
門馬会長も2度講演しています。同フォーラムのHPもご覧頂ければと思います。

- ⑤環境省文書回答にある門馬会長の個人交渉は現在日程調整中

- ⑥活動内容やマスコミ報道内容等は地権者会 HP 門馬好春 FB に掲載

5.【添付資料】

- ①環境省文書回答

- ②3月15日付福島民報・3月14日付民友記事

以上